

(一九九五年六月～十月)

編集後記

◇研究発表例会

七月四日(火)午後四時十分

於 一一一〇教室

「元暁の『法華宗要』」にみる一乗説」

博士後期課程三回生 徐 榮愛氏
「輪廻思想と仏教」

教授 舟橋尚哉氏

終了後、第五会議室で懇談した。

◇修士論文中間発表会

十月十七日(火)午後四時十分

於 一二一〇教室

修士論文提出予定者のうち、一〇名が発表を行なった。

◇研究発表例会

十月三十一日(火)午後四時十分

於 一一一〇教室

「中観仏教における縁起思想」
博士後期課程三回生 安武智丸氏

「唯識の一乗三乘」

教授 片野道雄氏

終了後、第五会議室で懇談した。

『仏教学セミナー』第六二号をお届けいたします。

今号には、福島教授ほかの論文三篇と、書評二篇、一九九五年度新入会員歓迎会における小川教授の講演を掲載することができました。ご執筆いただきました方々にお礼申し上げます。その中で、徐榮愛氏の論文は、若手の研究者や学生にも研究発表の場を、ということと選抜されたものです。これを機に今後も若手研究者の势力的な研究を掲載していきたいと思っておりますので、ご期待下さい。本学でもまもなく学内LANが始まるうとしています。決して早い実施とは言えませんが、画期的な事柄であることは確かです。このことで我々の仏教研究の質がどのように変化するかは、不透明な点が多いのですが、情報の伝達・情報の検索といった点が飛躍的に速くなることは確かです。ところで、速くなることは人間の生活にとって良いのか悪いのかという点は、よく考えなければなりません。

思います。なぜなら、仏教の「二辺を離れる」という教えに従えば、速くなることは必ず良いことだというのは一方の極端だと思われるからです。速いことは良いことでも悪いことでもない、それは単に変化ということを意味するだけである、これが事実なのではないでしょうか。人間を取りまく環境(≠文明)の変化は、いつの時代もそこを生きている一人一人の人間にとっては、かつてなかった変化なのです。我々の生きていくこの時代だけが、それまでの時代とは全く別の変化を迎えているということは言えないのではないのでしょうか。

コンピュータは、機械が先にあつてどのように使うかを後から考えているという点でこれまで人類が発明した機械とは全く違った性格を持っていると言われます。そうであれば、我々が直面している課題は、与えられたハードをどのように使いこなすかということではなくて、自分はそのハードを使って一体何を明らかにしたいのかということであると思えます。